

編集後記

編集委員の橋本侃教授が入院病気療養中なので、代わって編集後記を書くことになりました。橋本教授は 10 数年間にわたり「言語と文化論集」の編集に携わってこられました。学生や教員に声をかけ、原稿を集め、入稿し、編集し、完成するのは、さぞかし大変なお仕事だったことでしょう。なにごとすんなりゆかず、今回も、2 名の投稿者からの初稿の返却が遅れ、そのうちの 1 名とは全く連絡がとれない状況が続きました。やきもきして、見切り発車というところで、ようやく連絡がついたわけですが、この先何が待ち受けているかわからず、冷や汗をかいています。完成まで、気を抜けない日々が続きそうです。このようなことを橋本教授は長い間なさってこられたのだと感謝の念がふつつと湧いてきます。

論文を書くことは、研究者にとり、唯一の自力でのキャリアアップの機会です。この紙上を存分に利用して、多くの方がこれぞと思う論文を続々と投稿してくださることを祈ってやみません。

神奈川大学外国語学部教授 石井美樹子

投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を終了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出のこと。
 - (1) 長さは、日本語・中国語の場合は2万字程度、その他の言語の場合は、A4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。
 - (2) 原稿には英文の表題をつけ、ローマ字表記の氏名を明示する。

(例)

Verbal Irony and Echoic Use KANAGAWA Tarou

The phonological system of Hun mong ja hoe KANAGAWA Hanako
 - (3) 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。
 - (4) 提出するフロッピーディスクに、氏名・住所・電話（ファックス／Eメール）番号と、専攻（課程：修了年次・在学年次）、論文標題、使用ソフト名を記した一覧表を別文書として製作し、ハードコピー（1部）と共に提出のこと。ワープロの場合は、機種名・版数などを明記のこと。

(例)

神奈川太郎 神奈川大学大学院英語英文学専攻博士前期課程2年
神奈川花子 神奈川大学大学院中国言語文化専攻博士後期課程修了
4. 締め切り：10月31日
(執筆予定者は夏期休暇以前に編集委員に提出論文の概要と、予定字数を予告すること。)

神奈川大学大学院
言語と文化論集 第15号

2009年3月 印刷

2009年3月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究所
(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)

製作 昭和情報プロセス株式会社